

1.需給動向

1-1.世界の需給動向

レニウムの主な用途はガスタービン用ニッケル基スーパーアロイ添加剤、ガソリン製造用のアルミナ担持触媒である。一般的に前者には金属レニウムが、後者には過レニウム酸アンモニウム(以下、APR)が使用されている。そのほか国内では主に、タングステンにレニウムを少量添加したタングステン・レニウム合金が耐震用電球や高温用熱電対等の電子部品に使用されている。レニウムは市場が非常に小さいとみられるが、重要度の高い金属である。

レニウムを単独で含有する鉱石はないが、硫化銅鉱、モリブデナイト(斑岩銅鉱床のモリブデン精鉱)などの鉱石に微量含まれており、世界的には銅、モリブデンの副産物として回収されている。そのため、レニウムの生産量は銅やモリブデンの生産量に影響を受ける。主原料であるモリブデナイトの場合、レニウムは250～700ppm程度含有されているとみられる。

世界の金属レニウムの需給推移を表1-1、図1-1に示す。2013年の世界のレニウム供給量は前年比102%の65.0tと増加した。

2013年のレニウム需要量に関しては統計値が存在しないため、過去の供給量と需要量のバランスから前年比104%の61.1tと推計した。

2004年～2008年にかけてレニウム供給量・需要量が増加、2009年のリーマン・ショックで減少したものの、その後は50～60t程度で供給も需要も推移しているとみられる。

供給量のうち、銅・モリブデンのバイプロ品やウランの残渣からのレニウム生産量は前年比101%の53.0tであった。チリ、ポーランド、ウズベキスタン等の国では前年比横ばいであったが、米国、その他の国における生産量が前年比で増加した。

金属レニウムの国別生産量を図1-2に示す。世界の生産量の50%以上をチリが占めている。チリは銅及びモリブデンの上位生産国である。チリは銅製錬のバイプロとしてレニウムを生産している。

供給量のうち使用済み触媒等からのレニウム回収量は、2013年の統計値が存在しないため、ヒアリングから前年比100%の12.0tと推計している。

使用済み触媒等からの国別のレニウム回収量を図1-3に示す。ドイツ、米国、カナダの比率が高く、3カ国で世界全体の回収量の80%以上を占めている。

表 1-1 世界のレニウム需給

単位:純分t

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	構成比		
供給	生産量 ¹⁾	チリ	18.1	20.5	20.1	22.9	27.6	25.0	25.0	27.0	27.0	27.0	100%	51%	
		米国	5.9	7.1	6.2	7.1	7.9	5.6	6.1	8.6	7.9	8.1	102%	15%	
		ポーランド	-	-	-	-	-	-	-	4.7	6.0	6.0	6.0	100%	11%
		ウズベキスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	5.4	5.4	100%	10%
		カザフスタン	2.6	8.0	8.0	7.7	7.7	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	100%	6%	
		その他	10.10	10.30	10.30	13.30	13.30	12.62	9.40	3.10	3.30	3.35	102%	6%	
	小計①	36.7	45.9	44.6	51.0	56.5	46.2	47.2	50.7	52.6	53.0	101%	100%		
	回収量 ²⁾	ドイツ	2.0	2.3	2.6	3.0	3.4	3.0	3.2	3.4	3.7	3.7	100%	6%	
		米国	1.0	1.5	2.6	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.3	3.3	100%	5%	
		カナダ	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.5	2.0	3.0	3.3	3.3	100%	5%	
エストニア		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	1.0	1.1	1.1	100%	2%		
その他		0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.3	0.4	0.5	0.6	0.6	100%	1%		
小計②	4.7	5.6	7.0	8.1	8.5	7.8	9.6	10.9	12.0	12.0	100%	18%			
合計①+②	41.4	51.5	51.6	59.1	65.0	54.0	56.8	61.6	64.0	65.0	102%	100%			
需要 ²⁾	スーパーアロイ	24.0	34.0	40.0	41.0	45.0	42.5	41.0	42.0	44.0	45.6	104%	75%		
	改質触媒	3.50	4.50	7.00	7.00	6.00	5.50	5.70	6.00	6.00	6.22	104%	10%		
	GTL、その他触媒	1.50	2.50	4.00	4.00	3.50	3.00	3.80	4.00	4.00	4.14	104%	7%		
	その他	4.0	4.0	5.0	5.0	4.5	4.0	4.5	5.0	5.0	5.2	104%	8%		
	合計	33.0	45.0	56.0	57.0	59.0	55.0	55.0	57.0	59.0	61.1	104%	100%		

出典: 1) United States Geological Survey「Mineral Commodity Summaries RHENIUM」

※ウズベキスタンは2010年以前はその他に含まれる

※四捨五入により、各国の生産量合計値と合計値が合致しない場合がある。

2) 出典: Roskill「Rhenium: Global Industry Markets & Outlook 9th Edition 2013」

World: Estimated secondary production of rhenium 2002 to 2011

※2012年の国別回収量は、2011年の各国の比率を全体の回収量に適用した数値。

2013年は2012年数値を適用。

※2013年の需要量は、2004年から2012年の供給量に対する需要量の比率の平均値で算出。

用途需要は、2012年の構成比を適用した数値。

※GTL=Gas To Liquids(ガス・ツー・リキッド)

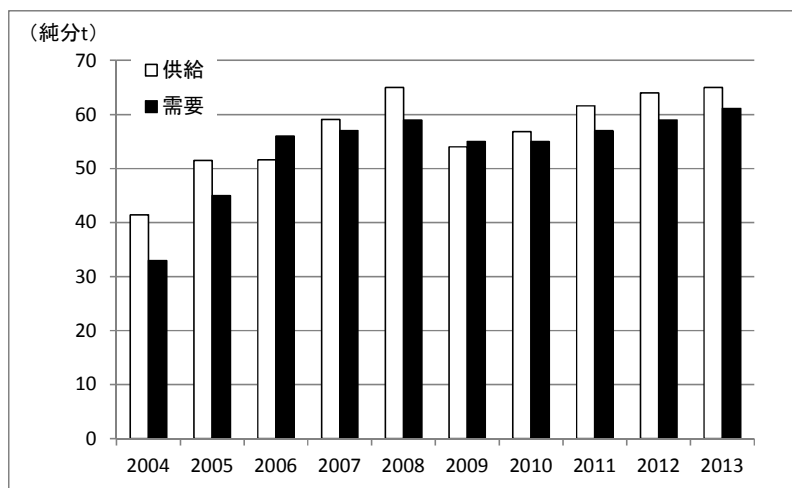


図 1-1 世界のレニウム需給

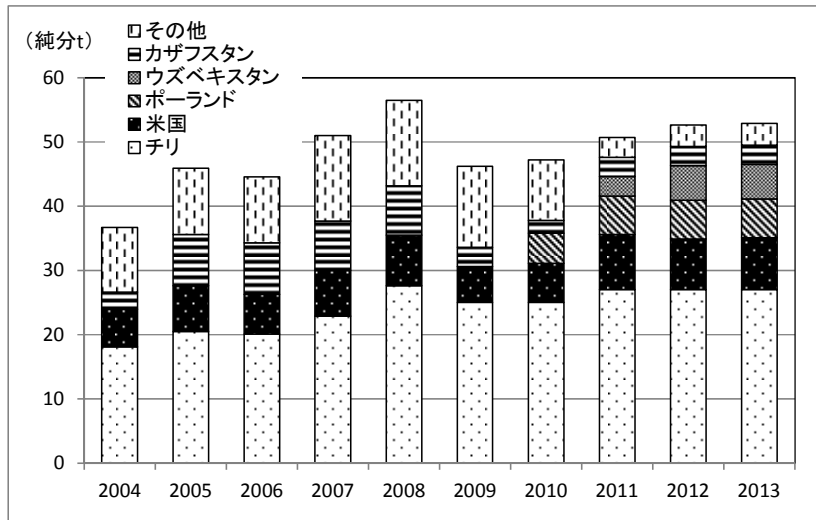


図 1-2 国別のレニウム生産量

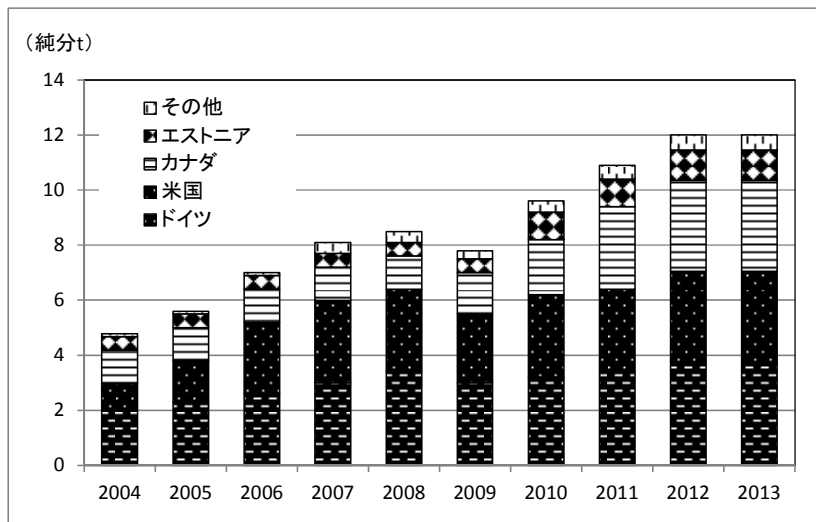


図 1-3 国別のレニウム回収量

1-1-1.米国の需給動向

世界のレニウム需要の多くを占める米国の需要を表 1-2 に示す。米国のレニウム需要量は前年比 83% の 40.0t と減少した。消費構成は 2012 年と同様にガスタービン向けが最も多く 70% を占める。そのほか触媒が 20%、その他が 10% を占める。

表 1-2 米国のレニウム需要

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	単位:t	
												13/12比	構成比
米国消費 ¹⁾	ガスタービン	8.1	18.5	28.1	28.9	36.1	26.0	32.8	29.5	33.7	28.0	83%	70%
	触媒	6.4	14.8	9.4	9.6	10.3	7.4	9.4	8.4	9.6	8.0	83%	20%
	その他	1.6	3.7	9.4	9.6	5.2	3.7	4.7	4.2	4.8	4.0	83%	10%
	小計	16.1	36.9	46.9	48.1	51.5	37.1	46.9	42.1	48.1	40.0	83%	100%
世界供給量		40.7	50.8	50.4	58.0	66.4	55.7	56.6	61.6	64.0	65.0	102%	-
米国消費率		40%	73%	93%	83%	78%	67%	83%	83%	69%	62%	-	-

出典: United States Geological Survey「Mineral Commodity Summaries RHENIUM」Consumption, apparent
 ※その他: 熱電対 (W-Re)、電気接点、電子部品 (ターゲット材)、ヒーター、フィラメント、質量分析器など (米国)。

1-2国内の需給動向

日本のレニウム需給や、レニウムの主要需要先であるガスタービン用ニッケル基耐熱合金市場に関する統計・情報はない。そのため、米国のレニウム需要及び世界の主要な航空機エンジンメーカーの売上高から日本のレニウム需要を推計する。

表1-3に世界の主要エンジンメーカーの航空用エンジン生産(売上)高シェアを示す。2004年～2012年の売上高の平均値を比較すると、日本の売上高は米国の10.77%に相当する。表1-2の米国のガスタービン向け需要に10.77%を乗じ、日本のレニウム市場を推計した結果を表1-4に示す。このような見方によるレニウムの国内市場は年3～4t程度である。

ただし、表1-4は売上高比で単純に推計した結果であり、この数値は推計可能な最大値と見るべきである。国内での民間機向け高圧タービンの生産はライセンスがないため行われていない(研究開発向けに限られる)。また、高圧タービンの国内生産はその大半が防衛省向け(表1-5参照)である。従って、レニウムの国内需要は触媒・その他を合わせ、実質1.0～2.0t程度と推計される。

表1-3 世界の主要エンジンメーカーの航空機用エンジン生産(売上)高シェア

単位: 億円

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	平均売上	構成比
米国	GE	13,524	13,107	15,296	19,814	19,902	17,531	15,465	15,030	15,987	16,184	27%
	UTC (P&W)	8,983	10,234	12,923	14,289	13,412	11,773	11,354	10,735	11,137	11,649	19%
	Honeywell	5,301	5,725	6,397	6,832	6,000	4,680	4,564	4,294	4,790	5,398	8%
	小計	27,808	29,066	34,616	40,935	39,314	33,984	31,383	30,059	31,914	33,231	53%
英国	RR	10,857	12,187	14,197	16,070	15,571	13,239	13,323	10,001	11,197	12,960	19%
	ITP	-	-	-	-	-	-	-	565	599	582	1%
	小計	10,857	12,187	14,197	16,070	15,571	13,239	13,323	10,566	11,796	13,090	20%
フランス	SNECMA	4,534	4,730	5,830	7,114	5,550	5,646	4,893	4,577	5,030	5,323	8%
	Turbomeca	897	994	1,269	1,595	1,559	1,238	1,092	1,017	1,138	1,200	2%
	小計	5,431	5,724	7,099	8,709	7,109	6,884	5,985	5,594	6,167	6,522	10%
ドイツ	MTU	2,679	2,939	3,225	4,151	4,124	3,394	3,145	3,277	3,473	3,379	6%
イタリア	Avio	1,403	1,495	1,719	2,082	2,047	1,835	2,037	1,921	2,096	1,848	4%
スウェーデン	Volvo Aero	1,019	1,110	1,268	1,331	1,168	952	938	791	599	1,020	1%
日本3社		2,919	3,405	3,769	4,064	3,948	3,342	3,325	3,616	3,832	3,580	6%
合計		52,116	55,926	65,893	77,342	73,281	63,630	60,136	56,502	59,877	62,745	100%

出典: 日本航空宇宙工業会「航空宇宙産業データベース」世界主要エンジンメーカーの航空エンジン生産(売上)高シェア

※日本3社 (IHI, KHI, MHI)。

※四捨五入により、各社合計値と全体の合計値が合致しない場合がある。

表1-4 日本のレニウムの需要(推計最大値)

単位: t

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	13/12比	構成比
日本消費 ¹⁾	ガスタービン	0.73	1.68	2.56	2.62	3.28	2.36	2.98	3.12	3.25	3.02	93%	80%
	触媒	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	100%	13%
	その他	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	100%	7%
	合計	1.48	2.43	3.31	3.37	4.03	3.11	3.73	3.87	4.00	3.77	94%	100%

※ガスタービン需要を表1-3から米国の10.77%と仮定した。但し本文で述べた理由により、ガスタービン向けは多くとも1.0t程度、合計で1.5～2.0t程度と推計される。

※その他需要は触媒の1/2と仮定した。

表 1-5 日本の航空機エンジン生産(2012 及び 2013)

	2012				2013				前年比 (計)
	億円		構成比 (計)	防衛省 比率	億円		構成比 (計)	防衛省 比率	
		内防衛省				内防衛省			
ターボジェット発動機	42	40	1%	95%	83	82	2%	98%	196%
ターボシャフト発動機	73	71	2%	97%	68	66	2%	98%	93%
その他	-	-	-	-	2	2	0.04%	100%	-
発動機部品	3,020	593	82%	20%	3,510	580	82%	17%	116%
修理	533	238	15%	45%	628	253	15%	40%	118%
合計	3,668	942	100%	26%	4,291	982	100%	23%	117%

出典: 経済産業省機械統計

2.輸出入動向

2-1.輸出入動向

APR や金属レニウムの輸出入は行われているが、レニウムは単独のHSコードがない。金属レニウムの場合、輸入はレニウム、ガリウム、ハフニウム、ニオブと、輸出はレニウム、インジウム、ガリウム、ハフニウム、ニオブと共に統計が行われている。

金属レニウムは、ガスタービン向けの需要が増加した際にスポット的に輸入が行われていると推定される。

APR の場合、オキソ金属酸塩及びペルオキソ金属酸塩のその他のもの(輸入: 2841.90090、輸出: 2841.90 000)として、他の品目と統合されている。その数値の殆どがレニウム以外と推定されるため、数値の掲載は割愛する。

2-2.価格動向

輸出入数量と同様の理由により貿易統計から輸出入価格の動向を把握できないが、レニウム粉(99.99%)について米国の通関統計から算出した価格動向を表 2 に示す。

レニウムは需給のタイト化が懸念され、2007 年~2008 年にかけて価格が上昇傾向にあった。その後需要が緩んだことや、回収品の生産量増加に伴い、レニウム価格は下降している。

表 2 レニウムの価格動向

単位: \$/kg

	2009	2010	2011	2012	2013
Re粉(99.99%)①	7,500	4,720	4,670	4,040	3,200

出典: United States Geological Survey「Mineral Commodity Summaries RHENIUM」

※Average price per kilogram of rhenium in pellets or catalytic-grade ammonium perrhenate, from Metal Bulletin.

3.生産者及び生産品目

日本における主要生産者は表 3 の通りである。

表 3 主要生産者及び生産品目

企業名	素材	
	APR	金属レニウム
光正	○	○
パンパシフィック・カッパー	○	-

出典: 矢野経済研究所作成

4.リサイクル

レニウムのリサイクル率は以下の定義により推計すると表4の通りであり、2013年のレニウムのリサイクル率は6.13%であった。

統計から把握可能なリサイクル数量は触媒からの回収のみである。

レニウムの主用途である航空機用高圧タービンは、民間機の場合、定期点検等で一定量の廃棄品が発生するが、その多くはエンジンメーカーが認定している再生メーカー(米国、英国など)が回収し、国内にはほとんど出回らなかった。

上記の状況を受け、光正は2013年6月にジェットエンジンなどに使われるタービンプレードの廃材(ニッケル基スーパーアロイ)からレアメタルを回収する設備を建設した。年間100トンの廃材からレニウム約2t、タングステン約6tを再生産する予定である。今後、ニッケルやコバルトなど、他のレアメタルも超合金から回収できる設備を整えていく。なお、レニウムの年間回収量は世界の消費量の約3%となる見通しである。

そのほか、防衛省機の場合、少量ながら国内でリサイクルされている可能性はあるが、その詳細は明らかになっていない。

リサイクル率	= (使用済み製品のリサイクル量) / (見掛消費)
見掛消費	= 国内市場 (推計最大値)

※レニウムの場合、貿易統計から見掛消費が算出できないため、見掛消費に代えて表1-4の国内市場(推計最大値)を分母としている。

表4 レニウムのリサイクル率

単位: 純分t

区分	内訳	2009	2010	2011	2012	2013
国内生産	生産	0.00	0.00	0.00	0.00	0.000
	②リサイクル ¹⁾	0.06	0.00	0.49	0.00	0.231
	合計	0.06	0.00	0.49	0.00	0.231
見掛消費(①国内市場) ²⁾		3.11	3.73	3.87	4.00	3.766
リサイクル量(②リサイクル) ¹⁾		0.06	0.00	0.49	0.00	0.231
リサイクル率(②/①)		2.0%	0.0%	12.6%	0.00%	6.13%

出典: 1) 触媒資源化協会「触媒資源化実績報告書」

2) 表1-4日本のレニウムの需要合計値

5. マテリアルフロー

